労働組合の積極的な関与が必要

―Corporate Social Responsibility（企業の社会的責任）の取り組み―

CSR（企業の社会的責任）の取り組みは、私達の職場や雇用を守り、労働条件の維持改善につながります。CSRの実現は会社のみでなく労働組合が積極的に関与する必要があります。そこで、政策・労働条件局の千頭洋一部長に解説してもらいました。

「良い会社」をつくりあげる

社会的存在として、すべての関係者に適切な配慮がなされる「良い会社」は、CSR（企業の社会的責任）を実現しているといえます。「良い会社」、「良い社会」をつくりあげることは、私達労働組合の目標です。真のCSRの実現には、会社のみでなく「良い労働組合」の協働が欠かせません。

企業不祥事等の影響もあり、特に2000年代前半から経営者団体等もCSRに注目し、多くの会社がCSR対策を推進してきました。例えば、CSR推進部署の設置やCSR報告書発行等の取り組みです。

CSRの主な取り組み分野としては、「雇用・労働（労災防止、従業員教育含む）」、「コンプライアンス・法令遵守」、「環境」、「安全・品質」、「コーポレート・ガバナンス（企業統治）」、「人権」等があげられますが、実に幅広い分野が対象となります。

ただ、それらにどれだけ素晴らしい理念を掲げても、従業員がCSRの意義を理解し、実践的な行動に反映させなければ〝絵に描いた餅〟となるでしょう。

会社にとって最重要の利害関係者だからです。

熱心に事例を聴くCSRシンポジウムの参加者達

真のCSR実現へ向けて

真のCSRの実現へ向けて、労働組合は従業員の声に耳を傾け、労働条件や職場環境の問題のみならず、倫理的な業務運営となっているか、すべての利害関係者に適切なコミュニケーションと配慮がなされているかを、常にモニタリング（監視）しなければなりません。そして、労使協議会等の場で会社にとって耳の痛い情報も確実に伝え、真摯に対策を協議することが、労働組合として最も重要な社会的責任といえるでしょう。

近年はCSRからC（企業）を取って、全ての組織を対象とする社会的責任である「SR」が重視されています。私達労働組合はCSRのみならず、USR（労働組合の社会的責任）を実現していくことも大きな課題です。

事例を報告する末吉武嘉全髙島屋労連会長（右）及び石川要一ミズノユニオン委員長（左）

本年4月24日にバングラデシュで起きた、安全基準を無視したビルの崩壊により、1100名以上の労働者が死亡したこともあり、国際労働運動としても多国籍企業に対し、CSRの実施をより強く求めるようになっています。

グローバル枠組み協定

UAゼンセンはこうした現状をふまえ、11月7日に東京のホテルラングウッドにおいて、「CSRシンポジウム」を開催し、加盟組合労使のほか業界団体や国際労働団体の方々、合計99名が参加しました。

ここでは、CSRの国際的動向、「グローバル枠組み協定」（※）を締結している髙島屋とミズノ労使の事例、会社側のCSR取り組み事例、UAゼンセンCSR対策指針等について、特に労働関係の側面の情報を共有し、活発な議論がなされました。

自らの労使の枠にとらわれず、例えば社会的に困っている人達をいかにサポートできるか、そうした視点で議論し、積極的な活動を進めていきましょう。

※【グローバル枠組み協定（GFA）】

2008年、㈱髙島屋、国際商業・通信（UNI）、日本サービス・流通労働組合連合（当時）、全髙島屋労働組合連合会が、2011年にはミズノ㈱、国際繊維（ITGLWF＝当時）、UIゼンセン同盟（当時）、ミズノユニオンがグローバル枠組み協定を締結した。これは、ILO（国際労働機関）が定めている中核的8条約（結社の自由、団結権の保護、強制労働の廃止、児童労働の廃止、雇用における差別の廃止等）などの遵守について共同で責任を負うこととしたもの。社会に対する誓約として企業のみでなく、労働組合も協定に調印し、ともに推進する共同公約のもとで海外での労使紛争予防の役割を果たしている。

こんな仕事をしています

幸せな生活に貢献

ライフコーポレーション

近畿、関東地方で主に店舗展開するライフは、創業52年を迎え日本一のスーパーマーケットを目指しています。

「笑顔」の接客でお客さまから「ありがとう」の言葉を頂くことは私達の大きな喜びで、「ライフっていいねぇ！」とお客さま、社会、従業員からも言ってもらえるよう力を合わせています。

笑顔の接客をモットーに頑張る

労働組合では、パートタイマー等の方々に組合加入活動を展開し、約1万1千名が2012年に加入となり、働く環境整備と処遇改善に取り組んでいます。

またすべての支部にパートタイマー組合員連絡係を設け、組合活動の理解と活動の推進を図っているところです。

今期からオブザーバー執行委員として4名のパートタイマー組合員が執行部に入り、頑張っています。（書記長・石井）

職場の環境改善へ

「ハラスメント撲滅標語」優秀作品

2013年度

〈セクシュアルハラスメント撲滅標語〉

・キャッチしよう　職場仲間の　SOS
東洋紡績労働組合　岩国支部　藤戸　政成さん

・気にしよう　世代の違いや　男女の違い
すかいらーくグループ労働組合連合会　仲村　龍太さん

・気をつけよう　いいと思うの　自分だけ
マルエツ労働組合　成増団地店支部　山後　裕介さん

〈パワーハラスメント撲滅標語〉

・パワハラで　生まれる不信　崩れる信頼
カネボウ労働組合　大阪支部　青山　恵美子さん

・部下の心　思えば出ない　その言葉
ダイエーユニオン　野芥店支部　小川　直記さん

・その言葉　自分に対して　言えますか？
クラレ労働組合　新潟支部　竹田　明展さん

職場におけるセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントが社会問題になっています。

UAゼンセンでは、ハラスメント対策セミナーやパワハラに関するモデル協定書、職場のハラスメント対策ハンドブックを作成し、取り組んでいます。

こともも具体的な運動を促進するために、4～7月末までセクシュアル・パワーハラスメント撲滅標語を加盟組合員およびその家族へ募集しました。

応募総数3351点（セクハラ撲滅標語1035点、パワハラ撲滅標語2316点）から優秀作品が決まりました。ご活用ください。

ミスターオーレー

三菱レイヨンOB　そうま　みちお

〝出会い〟〝笑顔〟〝思いやり〟
海外ボランタス活動の輪を広げよう！

2013年海外ボランタスチーム 活動報告

UAゼンセンはボランタス（社会貢献）活動で支援している海外のプロジェクトを視察・体験し、ボランタス活動の輪を広げることを目的に海外派遣を行っています。今年はオイスカとシャプラニールはバングラデシュの政情不安のため派遣は中止になりました。５月25日～６月１日に行った、スリランカでの仲間達の活動報告（抜粋）をご紹介します。

「光輝く島のために伝えたいこと」

日東紡績労働組合　岡戸　沙織さん

私がサルボダヤチームに参加した理由は、スリランカとはどんな国なのか知りたいという思いでした。しかし、今回のボランタスに参加しスリランカを知るにつれ、「スリランカのことやサルボダヤの活動について伝えたい」という思いに変わりました。

ボランタス活動が支援しているサルボダヤの活動は、村人が主体の〝自立〟サポートです。サルボダヤが素晴らしい活動をしていることを知りました。

国自体は貧富の差が拡大していくばかりで街は都会的ですが、地方は物資不足のため、インフラ整備も遅れています。しかし、現地の村民は、決して不幸であるとは思っていません。「貧しいとは単にお金がない、ものがないということだけではない。相手の心が理解できないということ」だと教えてくれました。

スリランカの方は優しくて、温かく、心はキレイです。初めて接する外国人に対し、ありったけのおもてなしをしてくれました。

私達の訪問のために仕事や学校を休んでいる様子で、盛大な歓迎を受けました。特に、ホームステイ先のホストファミリーの優しさは忘れません。言葉は通じなくても、ファミリーの生活の様子を一生懸命説明してくれました。

「満足なおもてなしはできませんが、初めて外国の方に会え、スリランカに来てくれて、嬉しかった」と泣きながら感謝していました。

短い一夜だけの時間でしたが、私はファミリーが大好きになり、本当に別れが名残惜しかったです。

今後のスリランカのためにもボランタス活動を広く充実していくために、私はできることから取り組んでいきたいと思います。

相手のきれいな心が理解できれば、みんな幸せになれることを実感した岡戸沙織さん

「多くを学び、大切なものを再発見」

三越伊勢丹グループ労働組合　井田　博樹さん

私自身初めてのボランタス参加で、組合としても初めての参加でした。

活動内容はスリランカの中心地から遠く離れたヌワラエリア地区で、各地の村づくりサポートをしているサルボダヤチームに参加しました。この活動の根底には「思いやりの心」が常にあることでした。この「思いやりの心」の輪がスリランカ国内でつながるように活動していることを知り、あらためて活動の意義を実感しました。

村人もサルボダヤの精神を受けて、村を良くするために工夫し、行動しています。私達ボランタスチームもその村人と一緒になって土を掘り返しての「水路づくり」を体験しました。重機も無く、農業用のクワを使い全て人力での作業で、かなりの重労働でした。おたがい、助け合いながら作業をしました。最初は言葉が通じず、戸惑いました。作業を続けていくと、全員の気持ちが一つになり、言葉の壁は解消されました。

村人とのふれあいの中で感じたことは、スリランカの人々の「心」はとても豊かであること。その心から湧いてくる「笑顔」があったから、言葉ではなく心で分かりあえたのだと思います。他人に対する関心が希薄になっている現在の日本社会とは違った「心の温かさ」を感じ、「人が持つべき豊かさの原点」を再発見しました。

はじめは不安ばかりでしたが、活動を通じて多くの体験と大切なものを感じとることができました。現地のスタッフ・各村の人々・ボランタスチームメンバーは、お互いに理解し合い、心でつながることで充実した活動となりました。今後は組合内でこの内容を伝え、活動の輪を広げたいと考えています。

思いやりの心があれば、言葉が異なっても気持ちが通じることを再発見した井田博樹さん

★サルボダヤチーム

現地のＮＧＯ「サルボダヤ」はスリランカ人による自立のための農村開発運動として世界的に発展している組織。ＵＡゼンセンはヌワラエリア地区にある村落開発を支援しています。サルボダヤの施設や村おこし活動を視察・体験し、村人の家でのホームステイも体験します。

2014年ボランタス海外派遣 参加者募集中

ＵＡゼンセンが支援するプロジェクトを視察・体験し、ボランタス活動の輪を広げることを目的に、2014年ボランタス海外派遣を実施します。

１．派遣チームと活動

（１）第18回オイスカチーム（バングラデシュ人民共和国）
マングローブの植林、「子どもの森計画」支援校の訪問など。

（２）第18回シャプラニールチーム（バングラデシュ人民共和国）
児童の教育活動やコミュニティの視察など。

（３）第16回サルボダヤチーム（スリランカ民主社会主義共和国）
施設や村落開発活動の視察、ホームステイ体験など。

２．募集人数

（１）オイスカチーム第１班＝４名、第２班＝３名
（２）シャプラニールチーム＝３名
（３）サルボダヤチーム＝１４名
※（１）、（２）は中止した今年の派遣予定者の人数を除いてます。

３．派遣者の選出方法

「参加申込書」と「応募動機作文」をＵＡゼンセン教育・男女共同参画・社会運動局へ提出、審査委員会で選出。１組合からの派遣は最大３名まで。

４．日程

派遣日程
①オイスカチーム第１班、サルボダヤチーム
2014年５月31日（土）～６月７日（土）
②オイスカチーム第２班、シャプラニールチーム
2014年６月14日（土）～６月21日（土）

５．応募締め切り

2014年１月15日（水）本部到着分まで

６．参加費用

１人当たり10万円をボランタス基金より補てん、上回った金額は参加者または派遣組織で負担。

2014 家庭に眠る小さなお宝キャンペーン

キャンペーン期間
2014年1～3月末

ＵＡゼンセンは、皆さんの家庭に眠っている小さなお宝を開発途上国の人々の支援に役立てるリサイクル活動を行っています。集まったお宝は①ハンガー・フリー・ワールド＝飢餓のない世界を創るための活動②シャプラニール＝市民による海外協力の会③シェア＝国際保健協力市民の会へ送付します。海外プロジェクトや活動資金として大切に活用されます。

お宝の内容（集めているもの）

書き損じ・未使用はがき（官製はがき）、未使用切手（日本切手）、使用済み切手（日本切手・海外切手）、未使用カード（テレホンカード、イオカード、オレンジカード、ハイウェイカード、パスネット、ＱＵＯカード、図書カード）、音楽ＣＤ（アルバムのみ）、ＤＶＤ、ゲームソフト（ケース、歌詞カード、取扱説明書のあるもの）、外貨（紙幣のみ）、金券（商品券・図書券・ビール券・酒券）、使用済みディズニーパスポート、ゲーム機器（すべてのパーツが揃っていて汚れや破損のないもの）

詳細は労働組合まで、お問い合わせください。

2014賃上げ闘争 ワーク・ライフ・バランス 標語・イラスト募集中

▶募集内容
①2014年賃上げ闘争の標語とイラスト
②ワーク・ライフ・バランスの標語とイラスト

▶応募資格
ＵＡゼンセンの組合員

▶締め切り
2014年１月20日（月）まで

▶応募方法
標語は各組合に配布している募集案内の用紙をご利用ください。ＵＡゼンセンのホームページにも掲載しています。イラストはＡ４サイズ程度の白紙の用紙にお書きください。
標語はメールまたはFAXで、イラストは郵送でご応募ください。作品に氏名・組合名をお書きください。一人１点ずつの応募。

▶入選作品
それぞれ優秀賞には１万円を贈呈（各３点）。最優秀作品（各１点）はポスターを作成します。

送付先
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-16
ＵＡゼンセン広報・情報局宛
TEL：03-3288-3566
FAX：03-3288-3727
Eメール：koho-jyoho@uazensen.jp